

小樽港将来ビジョン

1. 小樽港将来ビジョンの基本理念と基本目標

(1) 将来ビジョンの基本理念

経済・社会情勢の変化とともに、港湾を取り巻く環境やニーズが大きく変化してきている中、小樽港としても、さまざまな課題に対して明確な目標を掲げて取り組んでいかなければなりません。

小樽港の空間や関連産業活動は、古くから地域経済や市民生活を支える重要な役割を担ってきており、今後とも、都市経営において重要な位置を占める固有の資産です。

このため、本市のまちづくりや石狩湾新港との連携に配慮しつつ、港湾本来の役割である物流の活性化を柱とした躍動感あふれる魅力的な港湾を目指し、新たな港づくりを進めます。

(2) 将来ビジョンの基本目標

将来ビジョンでは、基本理念に沿って「物流の活性化」、「まちづくりとの連携」、「石狩湾新港との連携」の三つの基本目標を掲げて取り組んでいきます。

物流の活性化

小樽港の既存港湾施設や港湾業務・機能の集積を生かした物流の活性化や、対岸諸国との貿易拡大にも積極的に取り組み、道央日本海側の物流拠点としての発展を目指します。

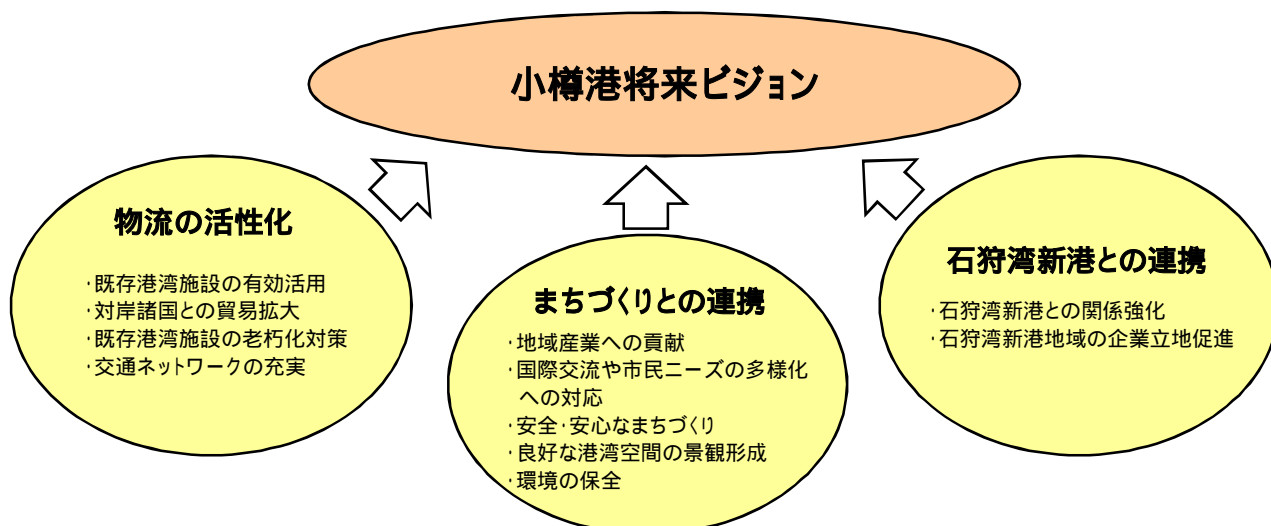
また、今後、老朽化が進む施設の機能保持、港の再開発、交通ネットワークの構築に努めていきます。

まちづくりとの連携

港湾機能の向上による地域産業への貢献、国際交流・市民交流・うるおいの生活の場として魅力ある港湾空間の形成、市民の安全・安心な暮らしを守る都市機能支援の充実、また港湾景観の形成や環境の保全にも努めながら、まちづくりと連携した新たな港湾空間の形成を目指します。

石狩湾新港との連携

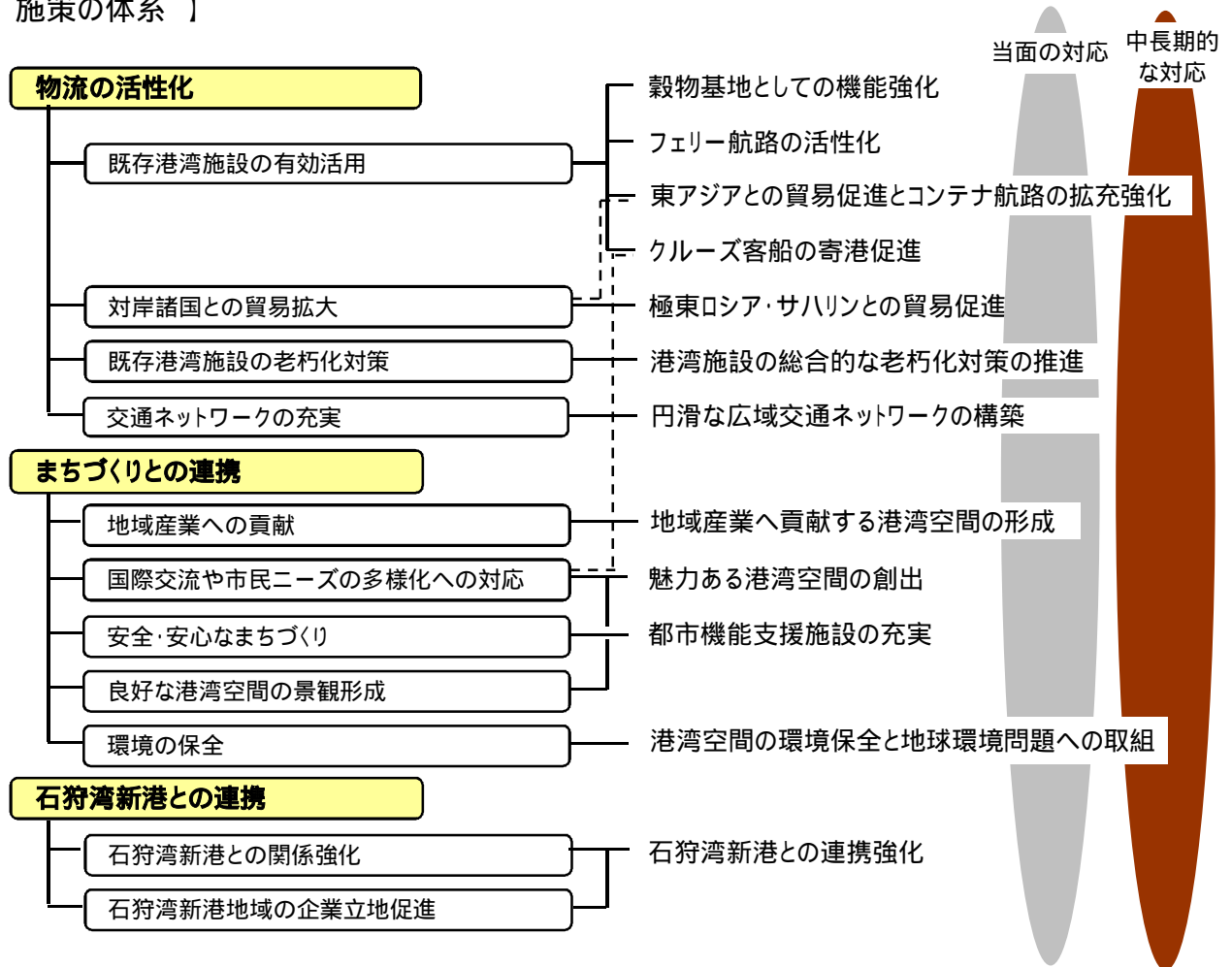
小樽港と石狩湾新港の特性を生かしつつ相互に連携するとともに、石狩湾新港地域の企業立地促進を図り、道央日本海側港湾としての発展を目指します。



2. 小樽港将来ビジョンの実現に向けた取組

将来ビジョンの実現に向けては、基本目標ごとに具体的な施策を立て、当面の対応及び中長期的な対応を定め、段階的に取り組んでいきます。

【 施策の体系 】



(1) 物流の活性化

1) 穀物基地としての機能強化 [既存港湾施設の有効活用]

小樽港の主要貨物として位置付け、近隣地域への関連企業や工場が集積に取り組むことにより取扱量の増大を図りつつ、北海道における穀物基地を目指します。

当面の対応

各穀物別に港湾業界や地元関連企業のほか、道内の関連企業との連携を強化し、流通全般にわたっての情報交換をする中で、小樽港を活用した相互に有益となる企業展開を検討していくとともに、積極的に関連企業の誘致を進めます。

中長期的な対応

引き続き穀物関連企業の誘致活動を進めていくとともに、関連施設の集約化など荷役の効率化により競争力を高め、穀物基地としての機能強化を図っていきます。

2) フェリー航路の活性化 [既存港湾施設の有効活用]

北海道の日本海側におけるフェリー拠点港として、既存航路の充実や対岸諸国との新規航路開拓など利用増大を目指します。

当面の対応

関係機関と連携しながら、物流・観光を連動させた営業活動を支援しつつ、物流面では、フェリー貨物の集荷活動を推進し、観光面では、船旅の良さのPR活動を強化するとともに、来訪者に小樽市内を回遊してもらうため、観光案内の拡充を進めます。

中長期的な対応

引き続き営業活動を支援しながら、小樽港を中心とした円滑な交通ネットワークの整備を進めつつ、移出の拡大につながる企業・工場の誘致を行うとともに、新たな客層の拡大に取り組み、対岸諸国への航路開拓も含めたフェリー航路の充実を図っていきます。

3) 東アジアとの貿易促進とコンテナ航路の拡充強化 [既存港湾施設の有効活用] [対岸諸国との貿易拡大]

小樽港の主要外貿と位置付けてポートセールス*等を積極的に展開し、今後とも成長が見込まれる東アジア諸国との貿易促進とコンテナ取扱貨物量の増大を目指します。

当面の対応

航路の拡充、貨物の集荷を図るためのポートセールスや貿易関連企業の拡大・育成などに取り組みます。

中長期的な対応

小樽港の利便性の向上に資する民間施設整備への支援やコンテナヤードの施設整備の拡充や地域物流情報サービスの構築など、取扱貨物量の増大も視野に入れた総合的な物流機能の強化を図っていきます。

4) クルーズ客船の寄港促進 [既存港湾施設の有効活用] [国際交流や市民ニーズの多様化への対応]

観光・経済への波及効果も大きいことから、港を生かした観光振興としてクルーズ客船の寄港増大を目指します。

当面の対応

寄港地での独自観光プランや体験型イベントの提供など、官民一体となったクルーズ客船の受入体制を確立しつつ、乗客ニーズの高い小樽ならではのサービスの拡充を進めます。

中長期的な対応

港を生かした観光拠点の形成や交流空間としてのクルーズ客船対応ふ頭を整備し、クルーズ客船の寄港促進を図っていきます。

5) 極東ロシア・サハリンとの貿易促進 [対岸諸国との貿易拡大]

ロシアとの貿易が小樽の経済に与える影響は大きく、ロシアとの至近性を生かして、北海道におけるロシア貿易の拠点港を目指します。

当面の対応

ポータルセールスやロシア関係セミナーによるロシア貿易におけるノウハウの周知や物流動向調査によるニーズ把握など、ロシアとの貿易拡大策に取り組みます。

中長期的な対応

サハリンプロジェクトの進展に伴い、後方支援基地としての小樽港の発展を図るための各種施設整備を行うとともに、極東ロシア・サハリンの平均所得層の向上により、生活基盤の整備や購買力の増大を踏まえ、「人」、「物」の交流を図っていきます。

6) 港湾施設の総合的な老朽化対策の推進 [既存港湾施設の老朽化対策]

老朽化した港湾施設の機能を保持するため、今後の動向を見据えながら、効率の良い港湾施設の再整備を実施し、効果的な港の再開発を目指します。

当面の対応

小樽港における港湾施設の施設点検と診断を実施した上で、重要度や劣化度を踏まえ、優先度を定めた港湾施設の総合的な更新計画の作成を進めます。

中長期的な対応

港湾全体の機能を効率的に発揮させるため、これからの物流の変化や利用者ニーズに柔軟な対応をしながら、耐震性も配慮した港湾施設の再整備を計画的に進め、効果的な港の再開発を図っていきます。

7) 円滑な広域交通ネットワークの構築 [交通ネットワークの充実]

小樽港の物流・産業を活性化させるため、関係機関と連携して、小樽港及び背後圏への円滑な広域交通ネットワークの構築を目指します。

当面の対応

国・道へ道内の幹線道路整備を要請していくとともに、小樽港縦貫線や各ふ頭内臨港道路において、年間を通じた適切な道路管理の強化を進めます。

中長期的な対応

引き続き広域道路網整備の要請を行いながら、小樽港縦貫線の4車線化整備を軸とする臨港地区内道路の円滑なネットワークの構築を図っていきます。

(2) まちづくりとの連携

1) 地域産業へ貢献する港湾空間の形成 [地域産業への貢献]

港の再開発による小樽港の利便性向上により、既存産業の振興、新たな産業の育成、海洋に関する研究の進展など、地域産業へ貢献する港湾空間の形成を目指します。

当面の対応

既存産業の振興について、関係機関と連携した効果的な市場調査を実施し、ニーズを把握するとともに、地域産業へ貢献する港湾空間の構想確立を進めます。

中長期的な対応

確立した構想に基づき、従来の物流機能の充実や既存産業を振興させつつ、バイオ、IT関連、リサイクル産業など新たな産業も育成し、海洋資源、海洋科学に関する研究を進展させ、地域産業へ貢献する港湾空間の形成を図っていきます。

2) 魅力ある港湾空間の創出 [国際交流や市民ニーズの多様化への対応] [良好な港湾空間の景観形成]

物流・産業機能との調和を図りながら、歴史、文化、水辺の景観を生かし、個性を発揮した新たな港湾景観を創出し、市民や来訪者にとって魅力ある港湾空間の形成を目指します。

当面の対応

市民、国内外の来訪者の多様なニーズを把握した上で、関係機関と連携しながら、小樽の特性を生かしつつ、市民等が身近に利用し、体験・学ぶことができる魅力ある港湾空間の構想確立を進めます。

中長期的な対応

確立した構想に基づき、引き続き連携を強めながら、国際交流の伸展や市民ニーズの多様化へ対応しつつ、良好な港湾景観の創出を含め、個性を発揮した魅力ある港湾空間の形成を図っていきます。

3) 都市機能支援施設の充実 [安全・安心なまちづくり]

都市機能支援施設の効果的な整備を進め、市民の暮らしを守る安全・安心なまちづくりに貢献する都市機能支援施設の充実を目指します。

当面の対応

関係機関との連携により、臨港地区内の安全確保や防災計画の充実に努め、住民への広報活動を強化するとともに、冬の市民生活を守る雪処理施設の検討を進めます。また、港湾施設の耐震性に配慮しながら、再整備の検討を進めます。

中長期的な対応

引き続き連携を強めながら、更に、安全性の向上と防災体制の強化や雪処理施設の整備を図っていきます。
また、港湾機能として、耐震強化岸壁*の整備や多目的オープンスペースの確保など安全・安心なまちづくりに貢献する都市機能支援施設の整備を図っていきます。

4) 港湾空間の環境保全と地球環境問題への取組 [環境の保全]

港内の継続的な水質管理や環境に配慮した施設整備により、良好な港湾空間の保全に努めていくとともに、地球環境問題にも目を向け、環境負荷の低減に寄与する港湾を目指します。

当面の対応

関係機関との連携により、港内の水質や底質等の継続的な監視体制を構築し、良好な港湾空間の保全に努めていくとともに、フェリー航路の利用促進など環境負荷の少ない「グリーン物流」を進めます。

中長期的な対応

ふ頭の再編や物流の拠点集約化、また、道路網の整備による臨港地区内の物流の効率化を進めることにより環境負荷の低減を図っていきます。

(3) 石狩湾新港との連携

1) 石狩湾新港との連携強化 [石狩湾新港との関係強化] [石狩湾新港地域の企業立地促進]

小樽港と石狩湾新港の特性を生かしつつ相互に連携するとともに、石狩湾新港地域の企業立地促進を図り、道央日本海側港湾としての発展を目指します。

当面の対応

ポートサービスやポートセールスなどにおいて、両港の連携を進め、相互に有益となり得る施策を展開していくとともに、銭函工業団地も含め、石狩湾新港地域の企業立地促進に向けた優遇策を展開します。

中長期的な対応

引き続き相互連携や企業立地を進めながら、両港の背後地域を活用した戦略的なポートセールスを展開し、太平洋側港湾との競争力の強化を図っていきます。

3. 小樽港将来ビジョンの実現に向けたゾーニング

将来ビジョンを着実に実現していくためには、港湾空間を用途に応じてゾーニングし、ゾーン別に関連する施策を重点的かつ効果的に行うことが必要です。

また、用途別に分けたゾーニングについても、空間別にコンセプトを更に明確にすることにより、効率的に施策を展開していくことが可能となります。

本ビジョンでは、おおむね5年後を目標とした当面の対応、及びビジョンの目標年次であるおおむね20年後における空間利用を、大きく四つの基本用途に分けてゾーニングし、それぞれの空間別にコンセプトを掲げて取り組んでいきます。

(1) 基本ゾーニング及びコンセプト

1) 物流・産業ゾーン

～ ゾーンコンセプト：地域産業に貢献する多機能で躍動的な物流・産業空間 ～

円滑な交通ネットワークの構築や港の再開発を進め、フェリー・コンテナ航路の拡充や穀物流通基地としての機能強化、対岸諸国との貿易拡大を図っていきます。

また、災害時においても基幹航路の機能や市民生活の安全を確保するため、港湾施設の耐震性を強化し、地域産業に貢献する多機能で躍動的な物流・産業空間の形成を目指します。

～ エリア(下記の周辺もエリアに含む、以下同様) ～

当面 (勝納ふ頭～第3号ふ頭、手宮・北浜岸壁～厩町岸壁、
小樽市漁業協同組合、小樽市公設青果地方卸売市場)
中長期 (勝納ふ頭～第2号ふ頭、手宮・北浜岸壁～厩町岸壁)

2) 交流・生活ゾーン

～ ゾーンコンセプト：文化、浪漫、うるおいが広がる交流・生活空間 ～

港湾空間としての全体的な景観に配慮しながら、港の再開発や地域産業への貢献、都市支援機能の充実を進め、国際交流や市民交流、生活の場として、小樽ならではの文化、浪漫、うるおいが更に広がる魅力的な交流・生活空間の形成を目指します。

～ エリア ～

当面 (第3号ふ頭基部、小樽運河)
中長期 (第3号ふ頭基部～第3号ふ頭、小樽運河)

～ 地区コンセプト：浪漫が感じられ、異国情緒も楽しめる国際交流空間 ～

外国貿易船やクルーズ客船の行き交う風情から浪漫が感じられ、東アジアやロシアを中心にさまざまな文化が融合した異国情緒も楽しみ、また小樽駅からの至近性を生かした中心市街地と一体感がある回遊性の高いにぎわいのある国際交流空間の形成を目指します。

～ エリア ～

当面 (色内ふ頭、小樽運河(北部)、運河公園)
中長期 (色内ふ頭、小樽運河(北部)、運河公園、小樽市漁業協同組合)

～ 地区コンセプト : 歴史的風情とふれあい、文化を育む市民交流空間 ～

市民が小樽の持っている独自の歴史的風情に触れ、小樽の良さを再認識しながら、交流の場を創出していくとともに、夢と希望を持った次世代を担う青少年が、新たな文化を育む活動を行う上で支援ができる市民交流空間の形成を目指します。

～ エリア ～

当面 (小樽港マリーナ・旧貯木場水面、小樽築港駅周辺地区)
中長期 (小樽港マリーナ・旧貯木場水面、小樽築港駅周辺地区、第二期運河、小樽市公設青果地方卸売市場)

～ 地区コンセプト : 開放感と爽快感の体験空間、うるおいとやさしさの生活空間 ～

小樽港マリーナとその周辺は、見て、感じる水辺の開放感と遊休水面なども活用したマリトレジャーを楽しみ、爽快感を味わう体験空間の形成を、JR小樽築港駅の周辺は、ウォーターフロントを感じるうるおいと利便性の高い、すべての人々に配慮したやさしい生活空間の形成を目指します。

3) **水産ゾーン**

～ ゾーンコンセプト : 水産業の振興に貢献する水産基地空間 ～

高島漁港区における漁船対応施設の充実や静穏度向上に努めつつ、資源管理型漁業を伸展させていくなど今後の水産業の在り方と調整を図りながら、水産業の振興に貢献する水産基地空間の形成を目指します。

～ エリア ～

当面・中長期 (高島漁港区、小樽市公設水産地方卸売市場)

4) **海洋開発ゾーン**

～ ゾーンコンセプト : 海の可能性を探求し、地域へ貢献する海洋開発空間 ～

我が国における総合的な海洋施策をまとめる海洋開発推進計画を踏まえ、関係機関の連携、情報の共有化に努め、海洋資源、海洋科学における調査研究機能の維持向上を図り、多様化する海洋利用や保全に向けて地域へ貢献する海洋開発空間の形成を目指します。

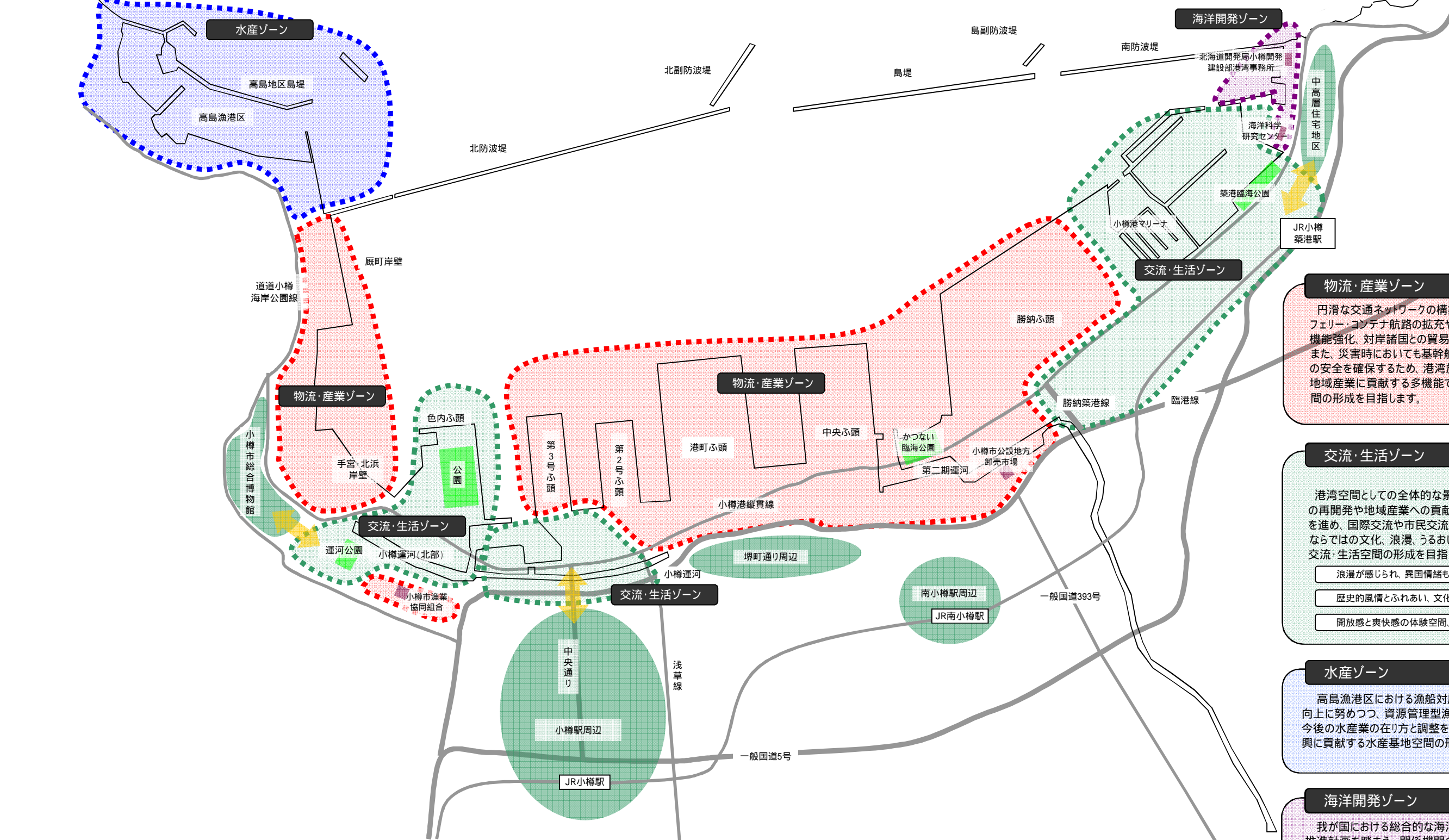
～ エリア ～

当面・中長期
(海洋科学研究センター地質研究所海洋地学部、北海道開発局小樽開発建設部港湾事務所)

用語解説

上屋	船との間で揚げ積みする貨物の仕分け、検査、積替えなどの作業をする建物。
外郭施設	防波堤、護岸、防砂堤など港内の施設を波浪などの外力から守るための施設。
グリーン物流	環境に対する負荷が少ない物流システムの総称。
クルーズ客船	宿泊やレジャー設備を完備し、船に乗ること自体を目的とした旅客船。
係留施設	岸壁や棧橋など、船舶の停泊に供するための工作物。
航路	船舶の航行に供するために設定された所定の水深と幅員を有する水路。
サハリンプロジェクト	ロシア連邦サハリン州の北東部大陸棚で進行されている大規模な石油・天然ガス開発。
資源管理型漁業	自然の魚を獲るだけでなく、漁場の造成や卵、稚魚の放流などにより水産資源の維持を図る漁業
耐震強化岸壁	大規模震災に備えて、通常より耐震性を強化した岸壁。
TEU	コンテナの本数を20フィート・コンテナ1本を基準に換算して表した単位。 (40フィート・コンテナ1本で2TEU)
荷さばき地	船との間で揚げ積みする貨物の仕分け、検査、積替えなどの作業をする広場。
泊地	船舶の停泊に供するために設定された所定の水深を有する水面。
バース	船舶を係留できる施設を施した所定の停泊場所、又はその単位。
パナマックス	パナマ運河を通行し得る最大船型のこと。
ポートサービス	引き船業務や船舶への給油・給水など、港湾における付帯業務。
ポートセールス	船舶や貨物を誘致し、港湾の利用促進を図るためのPR活動。

港湾空間の基本ゾーニング (当面：おおむね5年後まで)



物流・産業ゾーン

円滑な交通ネットワークの構築や港の再開発を進め、フェリー・コンテナ航路の拡充や穀物流通基地としての機能強化、対岸諸国との貿易拡大を図っていきます。また、災害時においても基幹航路の機能や市民生活の安全を確保するため、港湾施設の耐震性を強化し、地域産業に貢献する多機能で躍動的な物流・産業空間の形成を目指します。

交流・生活ゾーン

港湾空間としての全体的な景観に配慮しながら、港の再開発や地域産業への貢献、都市支援機能の充実を進め、国際交流や市民交流、生活の場として、小樽ならではの文化、浪漫、うるおいが更に広がる魅力的な交流・生活空間の形成を目指します。

- 浪漫が感じられ、異国情緒も楽しめる国際交流空間
- 歴史的風情とふれあい、文化を育む市民交流空間
- 開放感と爽快感の体験空間、うるおいとやさしさの生活空間

水産ゾーン

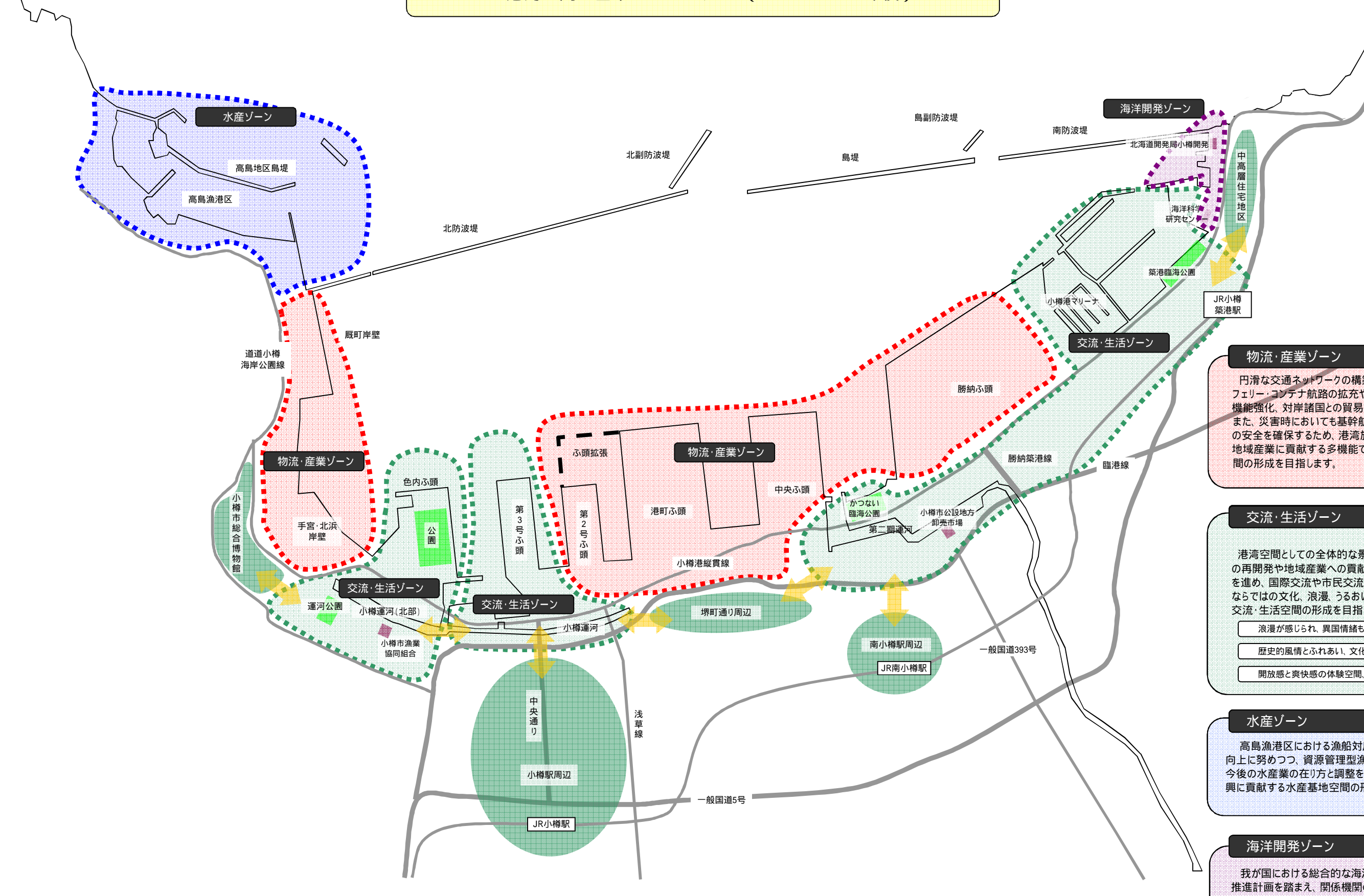
高島漁港区における漁船対応施設の充実や静穏度向上に努めつつ、資源管理型漁業を伸展させていくなど今後の水産業の在り方と調整を図りながら、水産業の振興に貢献する水産基地空間の形成を目指します。

海洋開発ゾーン

我が国における総合的な海洋施策をまとめる海洋開発推進計画を踏まえ、関係機関の連携、情報の共有化に努め、海洋資源、海洋科学における調査研究機能の維持向上を図り、多様化する海洋利用や保全に向けて地域へ貢献する海洋開発空間の形成を目指します。

連携を強化することにより、互いに充実が図られる空間

港湾空間の基本ゾーニング (おおむね20年後)



物流・産業ゾーン

円滑な交通ネットワークの構築や港の再開発を進め、フェリー・コンテナ航路の拡充や穀物流通基地としての機能強化、対岸諸国との貿易拡大を図っていきます。また、災害時においても基幹航路の機能や市民生活の安全を確保するため、港湾施設の耐震性を強化し、地域産業に貢献する多機能で躍動的な物流・産業空間の形成を目指します。

交流・生活ゾーン

港湾空間としての全体的な景観に配慮しながら、港の再開発や地域産業への貢献、都市支援機能の充実を進め、国際交流や市民交流、生活の場として、小樽ならではの文化、浪漫、うるおいが更に広がる魅力的な交流・生活空間の形成を目指します。

- 浪漫が感じられ、異国情緒も楽しめる国際交流空間
- 歴史的風情とふれあい、文化を育む市民交流空間
- 開放感と爽快感の体験空間、うるおいやさしさの生活空間

水産ゾーン

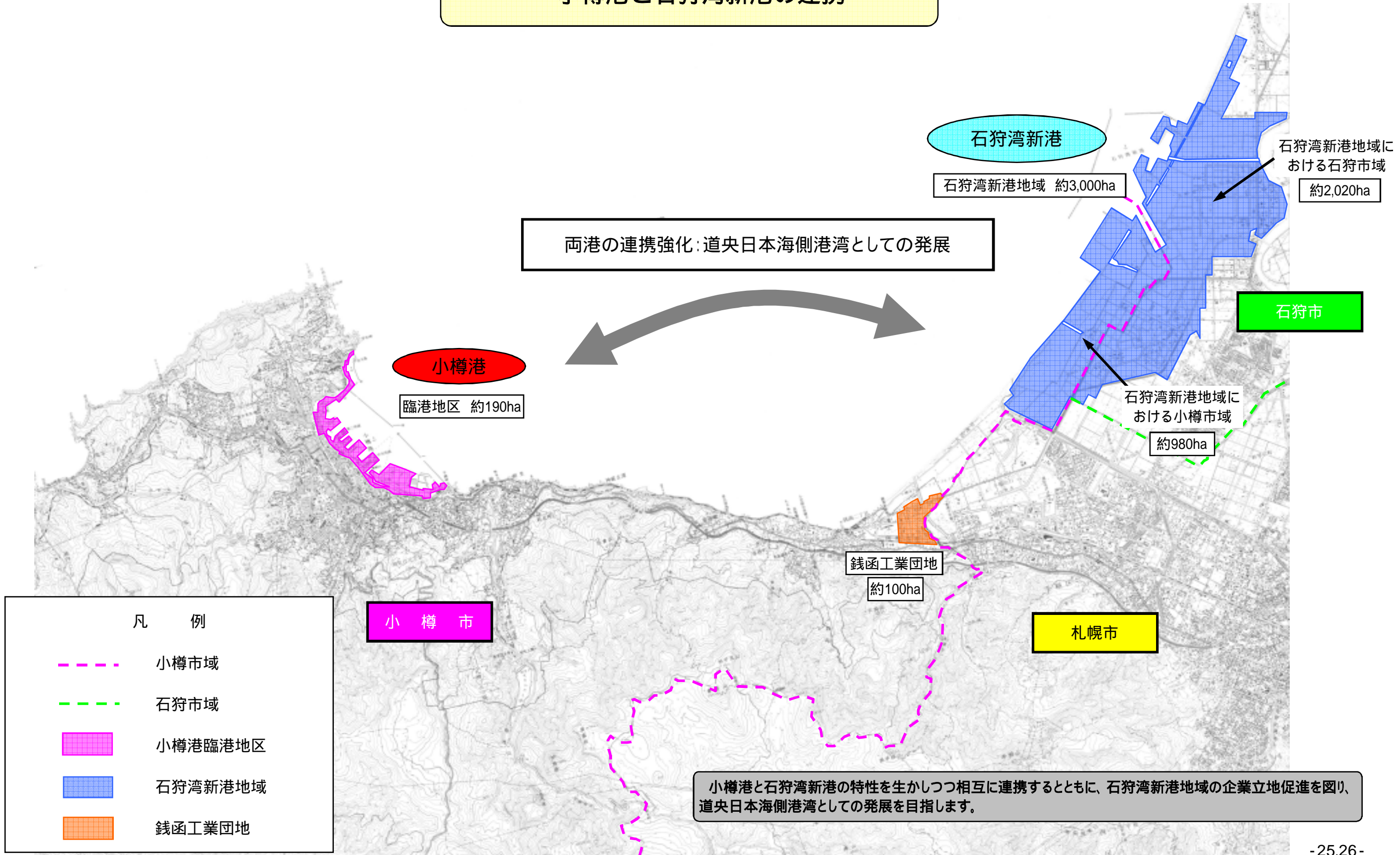
高島漁港区における漁船対応施設の充実や静穏度向上に努めつつ、資源管理型漁業を伸展させていくなど今後の水産業の在り方と調整を図りながら、水産業の振興に貢献する水産基地空間の形成を目指します。

海洋開発ゾーン

我が国における総合的な海洋施策をまとめる海洋開発推進計画を踏まえ、関係機関の連携、情報の共有化に努め、海洋資源、海洋科学における調査研究機能の維持向上を図り、多様化する海洋利用や保全に向けて地域へ貢献する海洋開発空間の形成を目指します。

連携を強化することにより、互いに充実が図られる空間

小樽港と石狩湾新港の連携



小樽港と石狩湾新港の特性を生かしつつ相互に連携するとともに、石狩湾新港地域の企業立地促進を図り、道央日本海側港湾としての発展を目指します。